

そんなに普通にいるタマムシではないのではと思われる。

さて、兵庫県下での本種の記録はと見るに、筆者が調べた範囲では仲田元亮氏による川西市大和（1 ex., 7—VI—1968, 仲田, 1978, 1982）の産地が知られているだけであった（他に記録があれば御教示頂ければ幸いである）。

1988年6月4日蜂谷幸雄氏は、龍野市神岡町で野バラの花に来ている多くのヒメヒラタタマムシに混じて本種の2♂1♀を採集された（標本全部筆者保管）。県下の記録がほとんど無い様な状況であるので、此処に新産地として報告しておきたい。クヌギ、アベマキなどにつくとあるが（黒沢, 1985）ヒメヒラタタマムシ風のは、成虫が花に来ることが多いことは良く知られていて、ヒメヒラタタマムシなども花で多く採集出来る。それらに混じてどうもいる様なので、ヒメヒラタタマムシが普通種なるが故に見落されているのではないかと思われる。もっと注意すれば産地はふえるのではないかと考えられる。

ムネアカセンチコガネの記録

（兵庫県甲虫相資料・226）

高橋寿郎

前号（第16巻、第2号）に“神戸市内産のムネアカセンチコガネ”と題して神戸市内産を中心にした記録を発表させて頂いたが、その後2～3の会員の方々から県下での本種の記録を御教え頂いたので、此処にまとめて報告しておく。

新家 勝氏より

神戸市東灘区青木一丁目新明和工業構内の大型照明灯の下で、朝の出動時路上でもがいているのを採集された由（7—VI—1969）。

西 隆広からは

芦屋市教育研究所指導主事の古市景一氏の標本の中に、芦屋市立山手中学校で採集されたムネアカセンチコガネがあった由。さらに、永橋嘉之氏からも1980年代に三木市、養父郡氷の山、多可郡加美町で採集しているとの連絡を頂いた。

結構、県下各地での採集例があるようで大いに喜んでいる。手許にお持ちの標本があれば、是非記録として発表して頂きたい。

(西官市での記録は本誌上に田中 稔氏が発表しておられる)。

アカマダラセンチコガネ採集・調査に挑戦を！

高橋 寿郎

アカマダラセンチコガネ *Ochodaeus maculatus* Waterhouse, 1875 は Waterhouse により “Shimabara. One specimen from a dead dog, May; a second from Tagami, an a bottle set with meat” を産地に図を入れて新種記載された種である (Trans. Ent. Soc. London, p.95-96, p. 1. III, f. 1, 1875)。Lewis も “Kiushu” を産地に記録された (Ann, Mag. Nat. Hist., XVI, p.385, 1895)。その後、加藤正世博士は “東京附近で獲られるが稀である” とし、分布を本州に原色で図説された (分類原色日本昆虫図鑑、第八輯, pl. 41, f. 1, 1933)。さらに、きれいな図をつけて詳しく解説された (昆虫界 Vol. 5, No.45, p.782-783, 1937. 武蔵野昆虫誌, p.173-174, 1938. 共に命名者名をどうしたわけか Westwood と間違っておられる。図鑑の方は正しい。ただし、武蔵野昆虫誌の方では産地を石神井・駒場とし、さらに本種は珍種と見るべきであるが、東京では時々採集される。神奈川県稻田登戸の標本があり、高尾山でも発見した。出現期は春と秋のごとくで、地上低く活発に飛翔する場合が多い。東京以外では余り採集されない様であるとある。分布は、本州、台湾となっているが恐らく、本州、四国、九州に分布しているだろうとされているが、原記載は九州産によっているのであるからこの説明はいささかおかしい)。

台湾での産は、三輪勇四郎博士の “台湾産昆虫目録 (翰翅目)” (台湾總督府中央研究所農業部報告, 第55号, p.275, 1931) に地名が掲げられている。

1950年の日本昆虫図鑑 (中根猛彦博士解説, f. 3780, p.1310) では、分布は本州、九州、動物の屍体、腐肉にくるが稀となっている。

四国からの記録は、1953年の “石鎚山と面河溪の昆虫相” の中で記録されたものが初記録になる “Kanmon, 1 ♂, VI-18, 1952, 稀” とあり、写真をつけて紹介されている (写真の解説では♀になっている) (四国昆虫学会々報 Vol. 3, Suppl. p. 68, pl. 8: 3)。